

事 務 連 絡
平成24年2月28日

各都道府県・防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室長

e-ラーニング用 WEB コンテンツの送付について

平素より、救急行政の推進について御理解、御協力をいただき御礼申し上げます。

さて、e-ラーニングを活用した応急手当講習は、「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正について」（平成23年8月31日付消防救第239号消防庁次長通知）に基づき推進しているところですが、この度、消防庁において、e-ラーニング用（応急手当講習）WEB コンテンツを作成し、各都道府県及び各消防本部へ配布いたしました。

つきましては、貴管内市町村（消防の事務を処理する組合を含む。）へ周知いただき、別紙（e-ラーニング救命講習実施要領）を参照の上、地域の実情に合わせ活用いただきますようお願い申し上げます。

なお、今回配布する WEB コンテンツは PC 用のみであり、3月末には、PC に加え、タブレット PC、スマートフォンにも対応可能な WEB コンテンツを追加配布する予定であることを申し添えます。

消防庁救急企画室 鮫島、渡邊、早川 電話 03-5253-7529 FAX 03-5253-7539

e-ラーニング救命講習実施要領

1 e-ラーニング環境の整備

e-ラーニング運用マニュアルを参考に、各自治体のサーバに e-ラーニング用 WEB コンテンツをアップロードし、環境を整備する。

2 e-ラーニング救命講習受講者の募集

- (1) e-ラーニング救命講習に関する広報を実施する。
- (2) e-ラーニング救命講習受講希望者に対し、e-ラーニングによる事前学習を指示し、その方法等の説明を行う。
- (3) 実技救命講習当日に e-ラーニング受講証明書、もしくは、印刷できない場合は、携帯電話の画像保存など e-ラーニングの受講が確認できるものを呈示するよう案内する。

3 救命実技講習当日

- (1) 受講証明書の確認
- (2) e-ラーニングに関する質疑確認
- (3) 実技救命講習（別紙 2 レッスンプラン例：参照）
- (4) e-ラーニング及び実技救命講習修了者に対し、各種救命講習修了証を発行する。

実技救命講習レズンプラン例（普通救命講習Ⅰ）

項目	細目	指導内容	時間		
導入					
応急手当の重要性	講義・質疑応答	○応急手当の目的・必要性 ○e-ラーニングに関する質疑応答	5分		
実技					
救命に必要な応急手当（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技）	反応の確認・通報	○反応の確認 ○119番通報とAEDの手配等	115分
			呼吸をみる	○正常な呼吸と死戦期呼吸 ○回復体位	
			胸骨圧迫	○圧迫開始基準 ○圧迫の位置 ○「強く、早く、絶え間なく」を实践 ○圧迫解除 ○人工呼吸との比率 ○できるだけ中断しないことを強調	
			人工呼吸	○頭部後屈顎先挙上法 ○口対口人工呼吸法	
			中間評価	○シナリオに対応した心肺蘇生法	
	AEDの使用法	AED使用方法	○AEDの基本操作 ○電極パッドの装着位置 ○電気ショック時の安全確認 ○ショック後の胸骨圧迫再開		
		AEDの注意点	○使用時の注意項目 （水/貼付物/ペースメーカー等） ○機種による違いへの対応		
		中間評価	○シナリオに対応したAEDを含めた心肺蘇生法		
	止血法	止血法	異物除去法 異物除去	○背部叩打法 ○腹部突き上げ法 ○反応がなくなった場合の対応	
			止血法	○圧迫点 ○圧迫方法 ○感染防護	
まとめと質疑					
合計時間			120分		

備考	1 e-ラーニングで60分の事前学習と確認テストを実施 2 2年から3年間隔で定期的な再講習を行うこと
----	--

実技救命講習レズンプラン例（普通救命講習Ⅱ）

項目	細目	指導内容	時間		
導入					
応急手当の重要性	講義・質疑応答	○応急手当の目的・必要性 ○e-ラーニングに関する質疑応答	5分		
実技					
救命に必要な応急手当（主に成人に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技）	反応の確認・通報	○反応の確認 ○119番通報とAEDの手配等	115分
			呼吸をみる	○正常な呼吸と死戦期呼吸 ○回復体位	
			胸骨圧迫	○圧迫開始基準 ○圧迫の位置 ○「強く、早く、絶え間なく」を実践 ○圧迫解除 ○人工呼吸との比率 ○できるだけ中断しないことを強調	
			人工呼吸	○頭部後屈顎先挙上法 ○口対口人工呼吸法	
			中間評価	○シナリオに対応した心肺蘇生法	
	AEDの使用法	AED使用方法	○AEDの基本操作 ○電極パッドの装着位置 ○電気ショック時の安全確認 ○ショック後の胸骨圧迫再開		
		AEDの注意点	○使用時の注意項目（水/貼付物/ペースメーカー等） ○機種による違いへの対応		
		中間評価	○シナリオに対応したAEDを含めた心肺蘇生法		
	異物除去法	異物除去	○背部叩打法 ○腹部突き上げ法 ○反応がなくなった場合の対応		
	止血法	止血法	○圧迫点 ○圧迫方法 ○感染防護		
心肺蘇生法に関する知識の確認		○知識の確認（筆記試験）	60分		
心肺蘇生法に関する実技の評価		○シナリオを使用した実技の評価			
まとめと質疑					
合計時間			180分		

備考	1 e-ラーニングで60分の事前学習と確認テストを実施 2 2年から3年間隔で定期的な再講習を行うこと 3 筆記試験及び実技試験については、客観的評価を行い、原則として80%以上を理解できたことを合格の目安とすること。
----	---

実技救命講習レズンプラン例（普通救命講習Ⅲ）

項目	細目	指導内容	時間	
導入				
応急手当の重要性	講義・質疑応答	○応急手当の目的・必要性 ○e-ラーニングに関する質疑応答	5分	
実技				
救命に必要な応急手当（主に小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技）	反応の確認・通報	115分
			呼吸をみる	
			胸骨圧迫	
			人工呼吸	
			中間評価	
	AEDの使用法	AED使用方法	○AEDの基本操作 ○電極パッドの装着位置 ○電気ショック時の安全確認 ○ショック後の胸骨圧迫再開	
		AEDの注意点	○使用時の注意項目（水/貼付物/ペースメーカー等） ○機種による違いへの対応	
		中間評価	○シナリオに対応したAEDを含めた心肺蘇生法	
	異物除去法	異物除去	○背部叩打法 ○腹部突き上げ法 ○反応がなくなった場合の対応	
	止血法	止血法	○圧迫点 ○圧迫方法 ○感染防護	
まとめと質疑				
合計時間			120分	

備考	1 e-ラーニングで60分の事前学習と確認テストを実施 2 2年から3年間隔で定期的な再講習を行うこと
----	--

実技救命講習レクシンプラン例（上級救命講習）

項目	細目	指導内容	時間		
導入					
応急手当の重要性	講義・質疑応答	○応急手当の目的・必要性 ○e-ラーニングに関する質疑応答	5分		
実技					
救命に必要な応急手当（成人、小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技）	反応の確認・通報	○反応の確認 ○119番通報とAEDの手配等	235分
			呼吸をみる	○正常な呼吸と死戦期呼吸 ○回復体位	
			胸骨圧迫	○圧迫開始基準 ○圧迫の位置 ○「強く、早く、絶え間なく」を実践 ○圧迫解除 ○人工呼吸との比率 ○できるだけ中断しないことを強調	
			人工呼吸	○頭部後屈顎先挙上法 ○口対口（口鼻）人工呼吸法	
			中間評価	○シナリオに対応した心肺蘇生法	
	AEDの使用法	AED使用方法	○AEDの基本操作 ○電極パッドの装着位置 ○電気ショック時の安全確認 ○ショック後の胸骨圧迫再開		
		AEDの注意点	○使用時の注意項目（水/貼付物/ペースメーカー等） ○機種による違いへの対応		
		中間評価	○シナリオに対応したAEDを含めた心肺蘇生法		
	異物除去法	異物除去	○背部叩打法 ○腹部突き上げ法 ○反応がなくなった場合の対応		
	止血法	止血法	○圧迫点 ○圧迫方法 ○感染防護		
心肺蘇生法に関する知識の確認		○知識の確認（筆記試験）	60分		
心肺蘇生法に関する実技の評価		○シナリオを使用した実技の評価			
その他の応急手当	傷病者管理	衣服の緊縛解除	○衣服の緩め方	120分	
		保温法	○毛布、防寒シートなどでの保温方法		
		体位管理	○座位、側臥位、ショック体位など		
	外傷の処置要領	包帯法	○鎖骨固定、健側固定、固定三角巾		
		副子固定法	○雑誌、段ボールなどを用いた固定（各部位）		
		熱傷の処置	○冷却、滅菌処置		
	搬送法	その他の処置	○溺水・熱中症・けいれんなど		
		搬送の方法	○支持搬送、背負い搬送、担架搬送		
		担架搬送法	○平坦地や階段での搬送方法		
		○身の回りにあるものでの作成方法			
まとめと質疑					
合計時間			420分		

備考	<ol style="list-style-type: none"> e-ラーニングで60分の事前学習と確認テストを実施 2年から3年間隔で定期的な再講習を行うこと 筆記試験及び実技試験については、客観的評価を行い、原則として80%以上を理解できたことを合格の目安とすること。
----	---